

つなぐ

Vol.40

2021.2月

動脈管開存症とは、肺動脈と大動脈をつなぐ動脈管がつながったままの状態、大動脈から動脈管を通じて肺動脈の方に血液が流れ込むようになるため、肺動脈の血液量、また左心房・左心室に戻ってくる血液量が増加して、心臓に負担が生じる病気である。

動脈管は赤ちゃんが母親の体の中にいるときには必要な構造であるが、通常は生後48時間以内に動脈管は縮んでほとんど血液が流れなくなり、数週間もすると完全に閉じるのだが、稀に開存したままの状態で成人を迎える人がいる。成人の動脈管開存症は、壮年期には無症状のまま経過することが多いが、加齢により息切れなどの心不全や動悸などの不整脈を生じることがある。

2019年に当院で導入しているカテーテル治療、動脈管開存閉鎖システム「ADOⅡ」は、外科手術に比べて患者さんの負担が少なく、比較的短期間で回復でき経過が順調であれば、数日内に退院が可能となる。

当院でも年間数例しかない稀な病気であるが、全ての心疾患患者の希望をつなぐ医療機関であり続けるために、いかなる病気にも全力で取り組み、現状に満足することなく常に新しい医療を模索し続けていく。





第49回

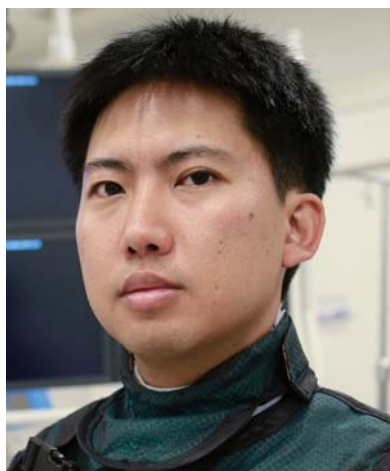
小倉循環器内科セミナー

2021年 2月22日(月) 18:00~18:30



不整脈デバイス治療の変遷

座長 / 小倉記念病院 副院長 循環器内科主任部長 安藤 献児



小倉記念病院
循環器内科 副部長
永島 道雄

参加方法



Zoomによる
web参加のみとなります!

Zoomの事前登録は不要ですが、
事前登録しておくことでリマインドメールが届きます。



PCの場合

小倉記念病院ホームページから①病院案内→②市民公開講座・勉強会・研究会のご案内→③勉強会・研修会→④Zoomボタンをクリックで参加が可能になります。



スマホの場合

右記のQRコードを読み込んで
いただくと参加が可能になります。

